

・たくさんのキーワードがあって、これから自分の中できちんと整理したいと思います。心に残ったことの一つに、一次的な言葉と二次的な言葉のちがいと、この間に大きな壁があることの実感があります。二次的な言葉の理解が、子どもたちにはとても難しいということをしつかり理解できていませんでした。なぜ聞けないのかという自分本位の問いばかりをもっていたことを恥ずかしく思いました。子どもの事実の原因、背景をしつかりとつかむ、という原点を改めて考えさせられました。一次的な言葉から二次的な言葉へと獲得を広げる子どもの姿を河野先生は、「苦しみを乗り越える」と表現されました。授業改善、改革の根底に常に子どもたちへの温かいまなざしがあることを強く感じました。一言一句聞き漏らしたくないという思いの一時間半でした。ありがとうございました。

・大変学ぶ事の多い研修でした。特に、子どもの姿を見ることができたので、私の中で河野先生のお話が胸に落ちました。「説明的文章の読み方」を子どもたち一人一人が確実に身に付けていくことが大切だと改めて実感しました。教師が教えたつもりでもだめですし、子どももわかったつもりではだめだと思います。活用可能な力を習得させることに、私たちは力を注がなければならないと思います。ありがとうございました。

・小学校・中学校それぞれの例を出して説明して下さったこと、ワークシートを使って話し合う時間をもたせていただいたことで、とてもわかりやすい研修でした。ありがとうございました。

・なぜ対話型の授業なのかということが胸に落ちました。低位層にいる子どもの学力保障は個別指導で、内容を易しくわからせること（伝えて理解させること）とあって悩んでいる職員がいましたが、その答えが少し見えたように思います。さらに、教材を読み取り、身に付けさせる内容を明確にして対話型授業を組み立てる道筋も少し見えました。「子どもを授業でかかわらせる」というだけで、その手段が曖昧であったのですが、光が見えました。

・「すがたを変える大豆」のワークシートを使った学習を通して、自分の体験と結びつけて考えさせるやり方やおもしろさが実感できました。

・国語を好きにさせたいという思いをずっともっており、どうしたら子どもたちを国語好きにさせられるか悩んでいました。今日の講義で学んだ「私とは違う他者と出会わせること」をいつも意識して授業改善をしたいと思いました。

・読み取りで理由とともに主張させることで、体験を引き出してやれるし、児童理解にもつながることがわかりました。

・一次的言葉と二次的言葉を使い分けたいと思います。

・できる子、わかる子だけが発表する学級風土は、教師が教室文化をどのように育てていくかという考えで決まってくるということに、はっとさせられました。また、表現力については、私自身も上手に発表させようということに考えがいていましたが、子どもたちが関わり合おうとすることが大切であるという話から、授業中の子ども同士の双方向の関係を大事にしていきたいと思いました。動画で授業を見せていただいたので、なるほど！

と納得しながら考えることができました。大変勉強になりました。ありがとうございました。

・話す力をつけるために、話型や話す順序などに気をつけることに意識を向けていましたが、楽しくなく、形式的な雰囲気になるのが悩みでした。今日、上手に話す力をつけるのではなくて、他者と関わることを通して表現する力をつけていくことの大切さがわかり、スッキリしました。今後の実践に生かしていきたいとです。